

## 第2回技術検討委員会報告会

# 技術的な面での塗装について

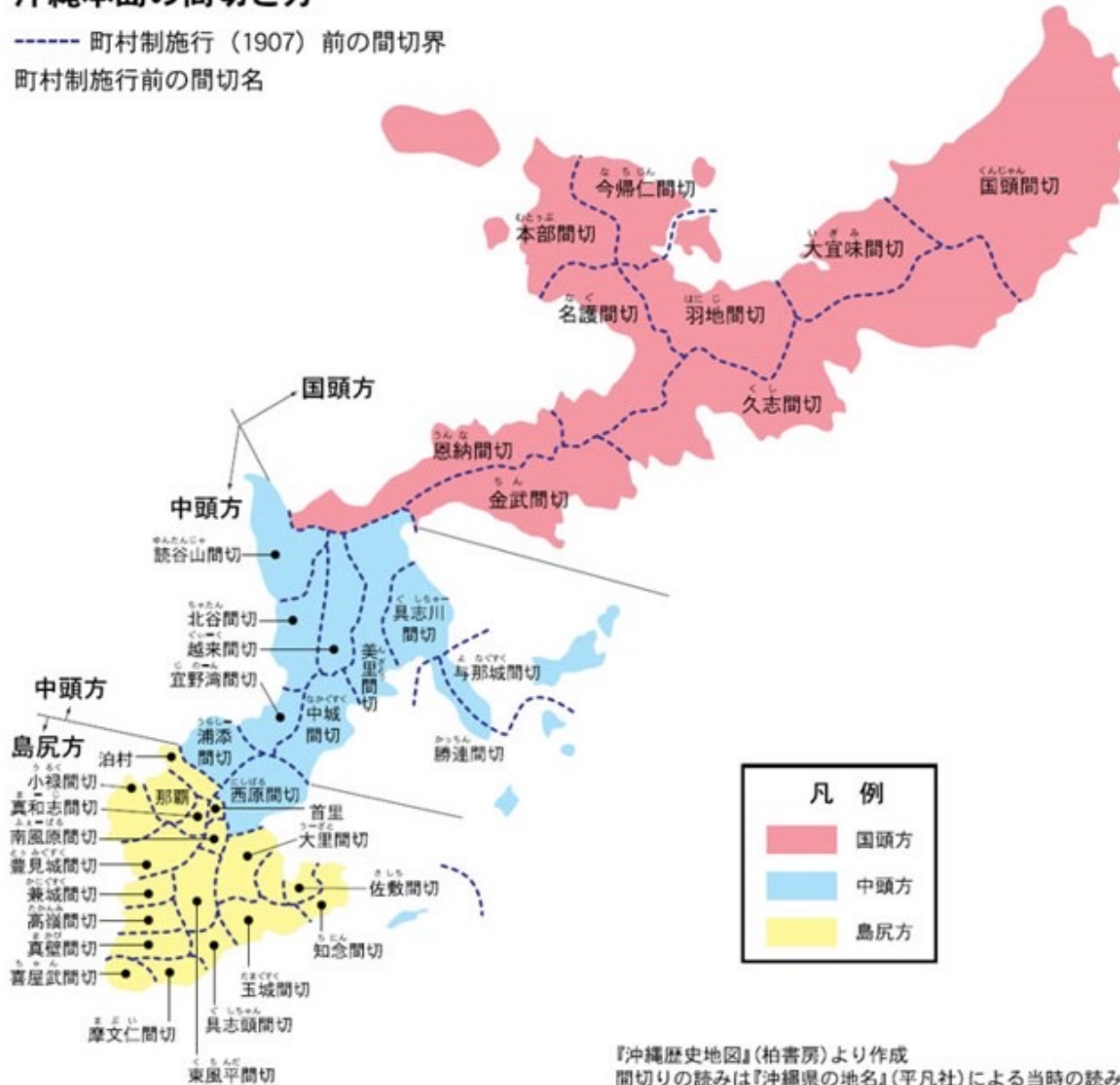
室瀬和美

# 桐油塗と久志間切弁柄

# 沖縄本島の間切と方

----- 町村制施行（1907）前の間切界

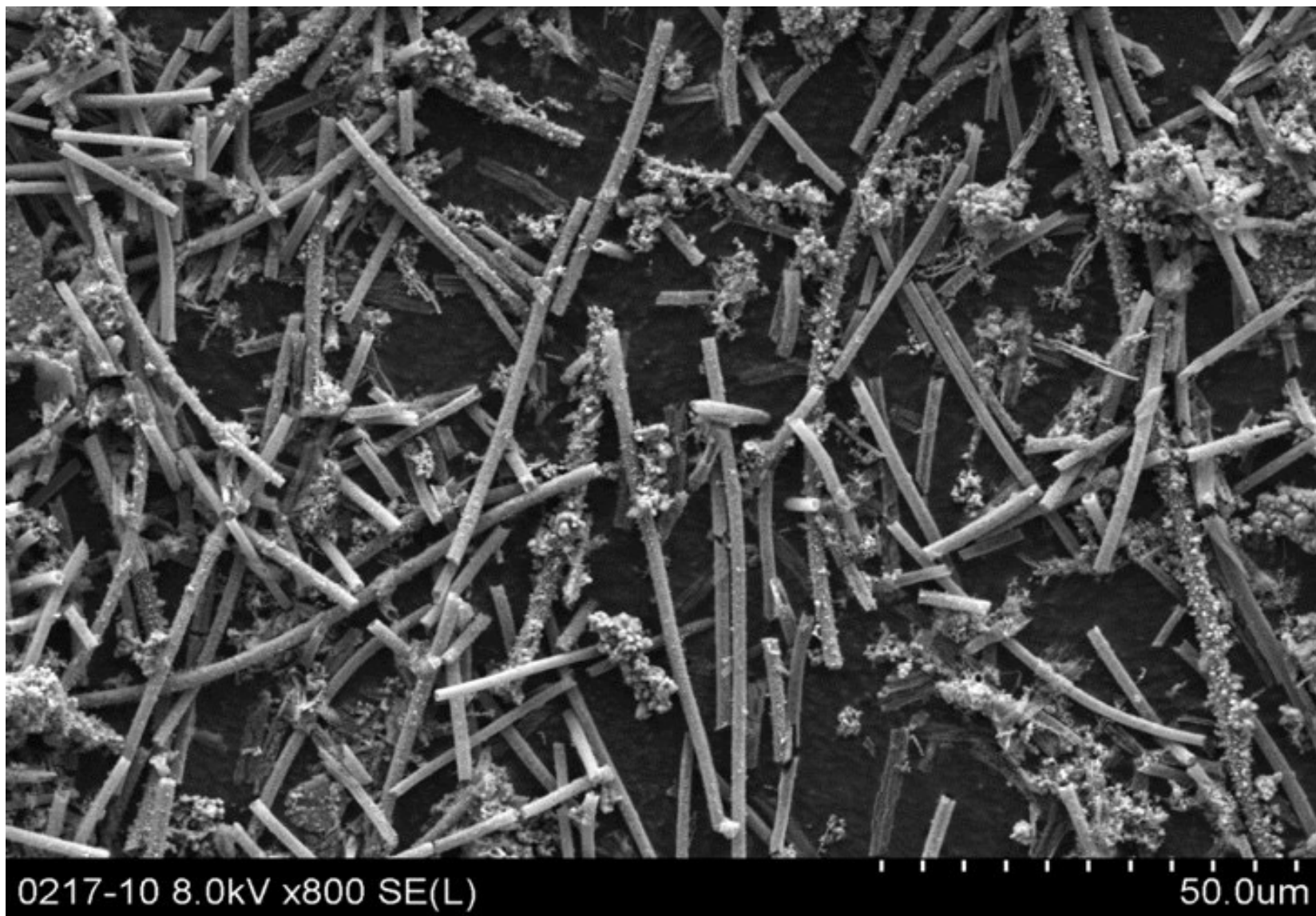
町村制施行前の間切名



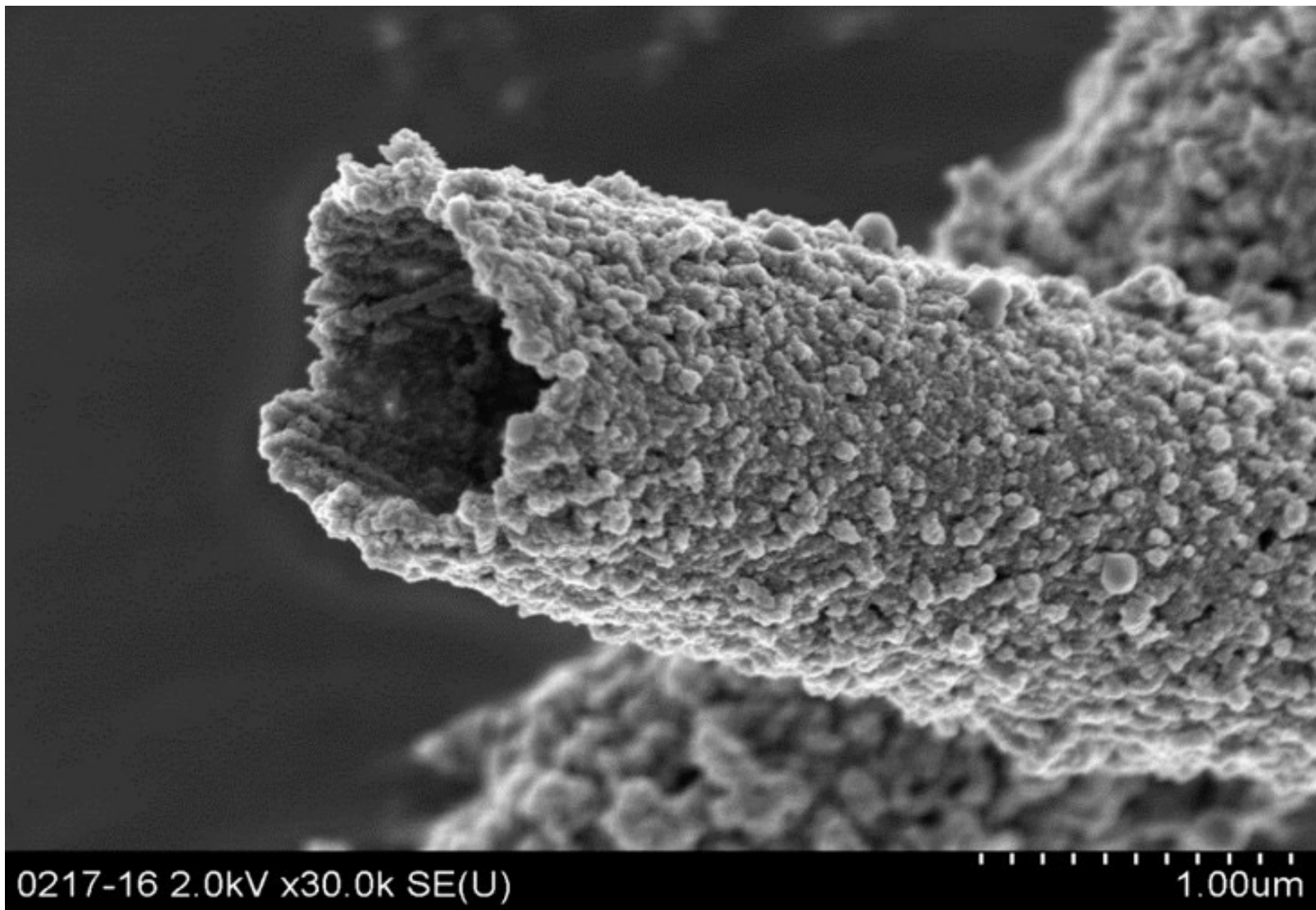
『沖縄歴史地図』(柏書房)より作成  
間切りの読みは『沖縄県の地名』(平凡社)による当時の読み







岡山大学 高田研究室撮影



岡山大学 高田研究室撮影







平成復元の市販弃柄



BIOX弃柄

# 黄塗と黄色塗

「尾州御小納戸日記」 (徳川林政史研究所蔵)

明和六年(一七六九)八月二十一日条

(前略)

右御風呂屋之者御先(二)遣し、御用濟分

御溜道具(二)差添南野居泊(せ)候筈、

一、黄塗御長持 壹棹

節々御供(二而)差遣候筈、

御用候ハ、諸事此壹棹(二而)合候付、

勿蓋御挟箱等ハ不差遣候、

一、御入湯御用(二)付、

御湯桶 壹ツ

御手洗 壹ツ

御懸り湯桶 壹ツ

御湯水溜桶 式ツ

御手桶 式ツ

御小桶 三ツ

御椀 壹ツ

(中略)

右之品々舩(二而)御先(二)相廻候筈、

「尾州御小納戸日記」 (徳川林政史研究所蔵)

安永四年(一七七五)十月十一日条

一、今晚七ツ半時御目覚御湯御□被為濟、

御祠堂奥御神の御拝被遊、六ツ半時

出御為御泊鷹野起宿(江)被為 成候、

右(二)付一件左(二)記、

十日

一、明十一日六ツ半時の御供□(二而)起宿御泊り鷹野

被為 成候旨被 仰付候、

御供左之通

(中略)

一、御本陣御風呂屋□軒御道中之通御本陣方出候、

一、黄塗御長持 壹棹

但常々御延氣出御之通日々御□所へ相廻、

一、御夜具御長持 壹棹

一、御風呂屋御長持 式棹

一、御幕串 壹釣

右之分御先(江)

一、勿蓋御挟箱 壹荷

一、御葉たんす 同

一、御幕串 同

一、御□櫃 同

一、御□桶 壹荷

一、合羽□ 同

(以下略)

古代の史料の中で、「黄牛（こうぎゅう）」という言葉が出てきて、これは黄色ではなく、飴色の牛を指す。

また、鷹狩で用いる鷹のうち、若い鷹を「黄鷹（きだか／わかたか／おおたか）」と呼んでいた。オオタカは幼鳥の時は胸の羽が茶色く、成鳥になると白く変化するのですが、「黄鷹」はこの幼鳥の時の茶色の羽に由来している名前。

こう考えると、黄色＝飴色（茶色に近い色）を指す可能性もある。

「黄漆」の「黄」を「茶色っぽい色（飴色?）」と認識している可能性もある。

「飴色の漆」だと、くろめ漆を塗っているような色になる。



白檀塗樓閣山水箔繪湯庫 (写真提供・所蔵 浦添市美術館)



平成復元時おせんみこちや



# 金磨





復元樂器（三金、新心、三板、兩班）



漆器(復元樂器)収蔵品No.416



掻き合わせ真塗

